

## 板書・ノート、1人1台端末

～ 児童生徒が思考を整理し考えを深めるために～

### 思考を整理し考えを深める構造的な板書・ノート指導

#### こんな授業になっていませんか

△ 板書計画がなく、場当たりの板書をしている。

学習内容の共有や理解を図り、子供たちの思考活動を助けるための重要な教具が黒板です。教師の板書は、学習内容の理解や意欲に大きく影響します。学習効果がより高まるような板書を心がけましょう。

#### ○子供の思考の流れが見える構造的な板書を

めあてや問題・答えだけでなく、子供たちの気づきや「問い」、考え方、話合いの視点などを板書に残し、子供たちが1時間の授業（思考）の流れが見える構造的な板書にしましょう。そのためには、授業展開から子供の反応を予想し、板書の計画を立てましょう。字の大きさやチョークの色を使い分けたり、学習内容と子供の考えを吹き出しや矢印などで関連付けたりするなど板書を工夫することで、より思考の流れが見える板書になります。

また、教師の授業の振り返りで板書計画や授業板書を活用することは、授業力の向上につながります。

#### こんな授業になっていませんか

△ 子供たちのノートの現状を把握できていない。

△ ワークシートの活用が子供たちの思考の広がりを制限している場合がある。

子供たちにとってノートは最も身近な学習用具の一つですので、有効に使わせることが必要です。「板書を写す」「言われたことを書く」だけのノートから、子供が自らの書き方や内容などを工夫して、書くことの楽しさを味わい、今後の学習に生かせるようなノート指導を行いましょ。

#### ○継続的なノート指導を

ノート指導は、年度初めの指導だけでは終わりません。ノート指導は、定期的に子供たちのノートの状況を把握し、評価や助言をすることが大切です。また、ノートづくりのためのノート指導ではなく、子供たちにとって学習の理解が深まり、定着に役立つよう指導を行いましょ。

#### ○授業のねらいや展開に即したワークシートとノートの活用を

ワークシートは、時間の短縮や記述内容を焦点化できる良さがあります。一方、ノートでは授業展開が子供たちに驚きや新鮮さを与えたり、意見や考えに多様性をもたせたりする良さがあります。

本時の授業のねらいや授業展開を吟味し、ワークシートとノートのどちらを活用するか判断しましょ。

## 1人1台端末の日常的・効果的な活用

1人1台端末を日常的に活用することで、子供の情報活用能力の育成を図ることができます。また、各教科においては、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成したり、学びの蓄積により学び・育ちを実感したりすることもできます。1人1台端末の日常的・効果的な活用を心がけましょ。

#### こんな活用になっていませんか

△ 1人1台端末を活用する授業や場面が1日に1度もない日がある。

#### ○1人1台端末を日常的に活用し、情報活用能力の育成に努める

言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」の一つである情報活用能力を育成するため、子供や学校の実態に応じ、1人1台端末を日常的に活用する場面を設定する必要があります。タイピング練習やAIドリル、調べ学習、写真・動画・音源教材の活用、情報モラル指導など、児童生徒の情報活用能力の向上のため、1人1台端末を日常的に活用していきましょ。

#### ○思考力・判断力・表現力等の育成や学びの蓄積の振り返りに活用する

子供の思考の可視化・共有・表現のツールとして1人1台端末を効果的に活用することで、思考力・判断力・表現力の育成につなげることができます。また、自分の学びをデータとして蓄積することでいつでも振り返ることができ、学び・育ちの実感や、主体的に学習に取り組む態度を育成することにもつながります。